

尾瀬沼集団施設地区再整備の概要・スケジュール

整備のコンセプト

関東地方環境事務所

■ 尾瀬沼地区の魅力向上

- ・尾瀬沼周辺を中心地として、拠点機能を充実させる。
- ・情報提供や学習支援の充実を図るとともに、緊急避難にも対応できるようにする。
- ・尾瀬沼湖畔の美しい眺望を、より一層楽しめるようにする。

■ 老朽化への対応

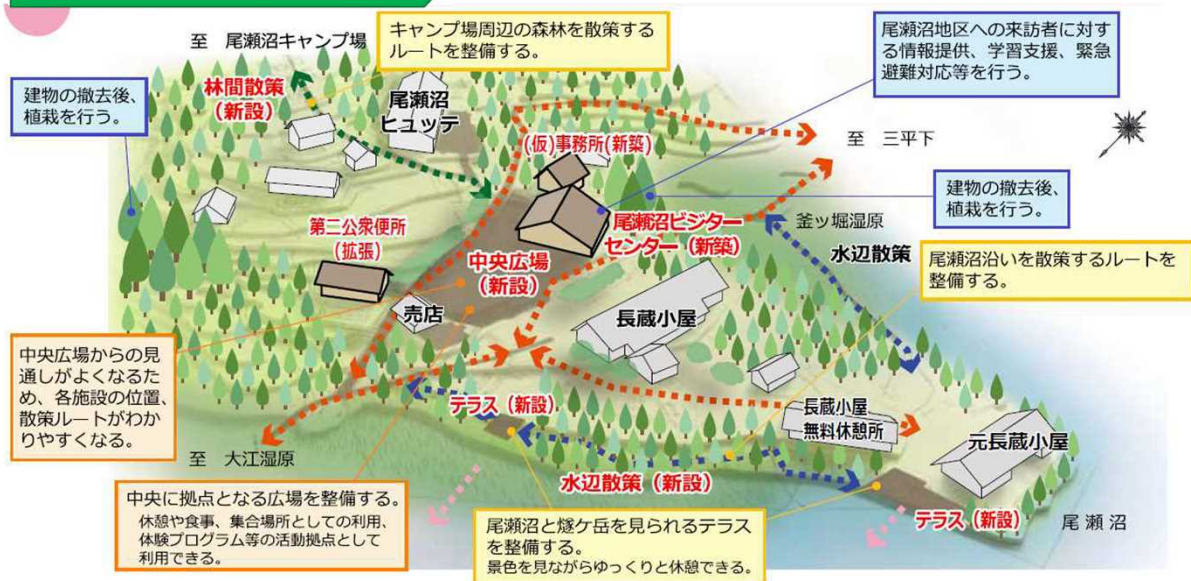
- ・老朽化した建物について集約化を図り、利用しやすい施設配置にする。

■ 自然環境との調和

- ・わかりやすい歩道の整備とともに、踏圧による裸地化への対策を行う。
- ・施設を撤去した跡地に裸地が生じる場合は、緑化を行う。
- ・貴重な植物群落の破壊が生じないよう留意する。

尾瀬沼の魅力を高めるための
長期的視野に立った拠点整備

整備内容



整備スケジュール

- ・平成25年度：尾瀬沼集団施設地区再整備基本計画の策定
- ・平成26年度：新・尾瀬沼ビジターセンター基本設計
- ・平成27年度：新・尾瀬沼ビジターセンター及び展望テラス実施設計
- ・平成28年度：新・尾瀬沼ビジターセンター建設予定地の樹木伐採、整地工事等を実施。
- ・平成29年度以降：引続き、各施設の整備に順次着手（予定）
- ・平成32年度：新尾瀬沼ビジターセンター供用開始（予定）
- ・平成32,33年度：既存ビジターセンターの解体撤去（予定）
- ・平成34年度：中央広場などの外構工事（予定）

尾瀬沼ビジターセンターの展示コンセプトについて

関東地方環境事務所

1. ターゲット（対象・属性）

- ・リピーター
- ・子ども（学校団体、親子連れ）

2. 目的

- ・尾瀬の自然に関する情報発信の場。
- ・主要な利用拠点の一つとして、尾瀬の適正利用の推進、滞在型利用の促進、利用分散に資する。
- ・尾瀬をフィールドとした環境学習への支援。

3. 目標

～入館前後で利用者の心情はどう変わったか、どのような変化を与えられたら成功か～

- ・山の入門編として、ルールや自然のすばらしさ、厳しさを知り、ルールの遵守や自己管理を心がけるようになる。
- ・尾瀬の魅力を深く感じ、また尾瀬を訪れ、新たな一面に出会いたいと思う。
（別の時期に、別の場所へ、宿泊で、知り合いを連れて）
- ・自然・文化への理解が深まり、自然・文化を大切にしようと思い、保全活動に参加しようと思う。

4. 方針

常設展示：利用者のニーズを全般的に、薄く広く&環境省としての普及啓発

- ・リアルタイムな開花情報を展示する。
- ・尾瀬に生息する主要な動植物の詳細を紹介する。
- ・尾瀬沼地区周辺、次の来訪地のビュースポットを紹介する。
- ・尾瀬国立公園の四季や、自然の基本情報を展示や映像等で提供する。
- ・登山道情報やコースタイム、天気、クマの出没情報、公共交通機関の時刻表等を分かりやすい場所に掲示する。
- ・尾瀬国立公園の概要、規制・マナーについては、誰でも分かるような説明とする。（小学生、外国人）

企画展示：ターゲットを絞り、深く狭く

- ・展示室の約半分のスペースを企画展示とし、毎年入れ替えを行う。
- ・企画展示は、専門的な内容や最新の知見、マニアックなテーマを取り入れることで、リピーターにも新鮮で興味深く感じるものとする。
- ・環境省や関係者の取り組みを紹介する。
- ・企画展示には、ハンズオンや五感で感じる仕掛け、利用者参加型企画を併用することで、初回の利用者や小学生でも専門的な内容に興味を持つきっかけとなるようにする。

レクチャールーム

- ・映像等で尾瀬の利用、文化、保護の歴史や、環境保全の取り組みを学習する場とする。
- ・尾瀬の映像や音声を聞きながら、休憩や雨宿りが出来るようにする。
- ・クラフトなどの活動プログラム

尾瀬沼ビジターセンターの利用者のニーズについて

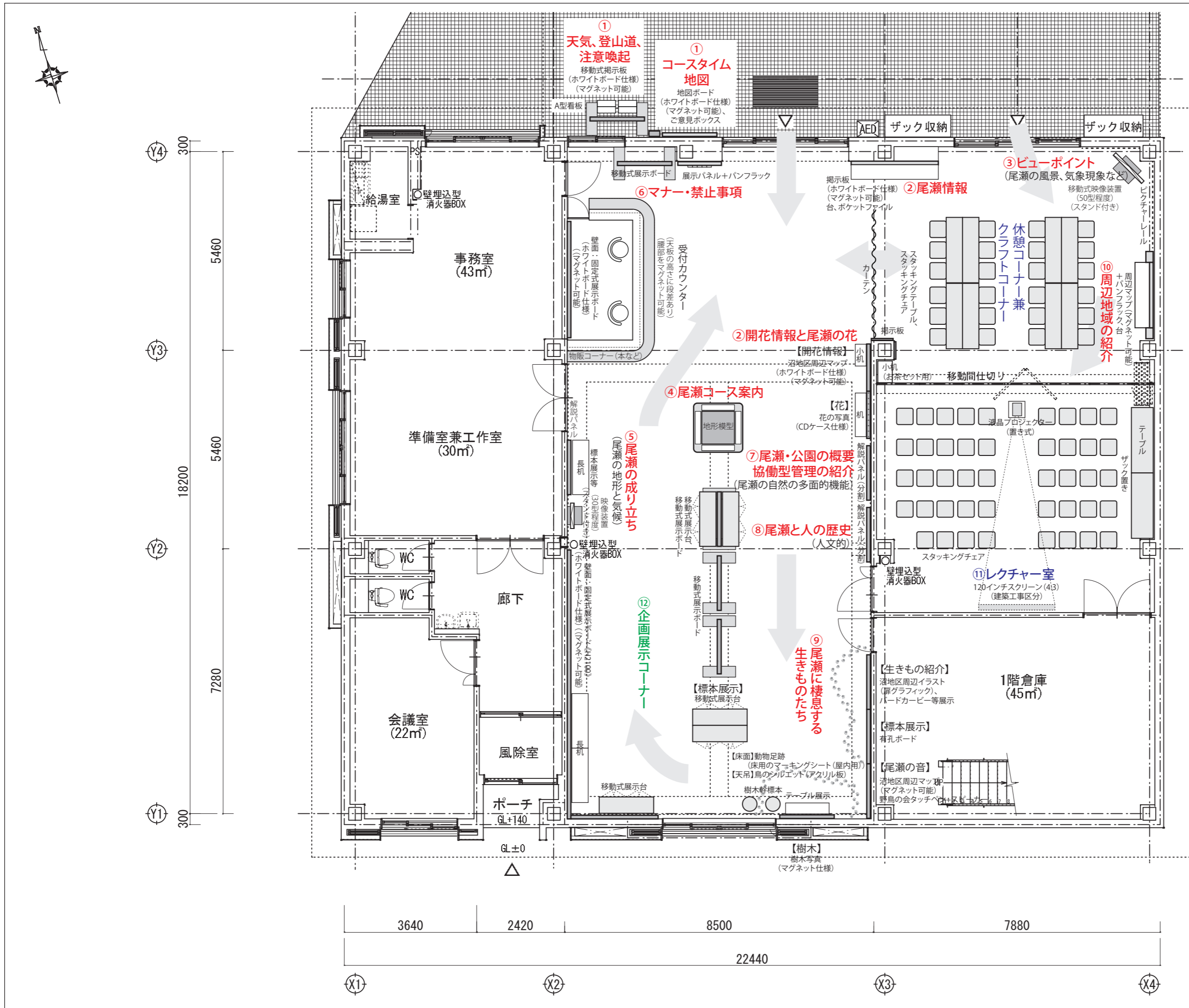
～属性毎に利用者の満足度を上げるために必要な情報は何か～

関東地方環境事務所

利用者の目的・行動		必要とする情報
目的	湿原の花の観賞、植物観察	開花情報、花の名前や説明
	風景の観賞	ビュースポット、開花情報
	写真撮影	ビュースポット、写真スポット、開花情報
	トレッキング	登山道情報やコースタイム、天気、開花情報、ビュースポット
	百名山登山	登山道情報やコースタイム、天気、装備や行程の案内
	昆虫等の動物観察	尾瀬に生息する動植物の情報、説明
団体	小学校等の環境学習	尾瀬の概要、動植物の説明、自然保護の歴史・取組 子どもが楽しめるハンズオンや映像、休憩場所
	クラブ等の団体活動	登山道情報やコースタイム、天気
	親子連れ	子どもが楽しめるハンズオンや映像、休憩場所
行程	山小屋やキャンプ場の宿泊者	翌日の天気、朝夕の見所、宿泊者用イベントの情報、星
	日帰り客	丁度良い散策場所、公共交通機関の情報
回数	初めて尾瀬に来た人（約 3 割）	尾瀬の自然の基本情報、コースや公共交通機関の情報
	リピーター（約 7 割）	専門的な内容や最新の知見、マニアックなテーマ
経験	登山をしたことがない人	コースタイム、天気、行程の案内

※H28 尾瀬沼 VC 利用者満足度把握 アンケート集計結果より作成

展示平面案 →手法		利用者の ニーズ	○アンケートの意見 ■環境省として入れたい内容 ☆ヒアリングの意見	展示手法についてのアンケート結果
①	掲示板（天気、登山道、注意喚起） コースタイム地図	○	○各登山道の情報（燧ヶ岳含む） ○クマの出没情報、クマにあったらどうするか？ ○見晴地区、山の鼻地区の山小屋の紹介 ○お休み所（ベンチ、テラスなど）の紹介 ○国立公園全体の地図 ■登山道情報やコースタイム、天気、クマの出没情報、公共交通機関の時刻表等 ☆テラスにコースタイムを確認できる地図	
②	開花情報 →写真、マップ	◎	○花の月表 ☆オンタイム（その日、昨日）の尾瀬沼の情報	湿原の植物：写真
③	ビューポイント →写真、映像、音	○	○おすすめ撮影スポット ○宿泊してこそ魅力PR、朝夕の尾瀬沼・尾瀬ヶ原 （朝もや、白い虹、朝焼け、夕焼け、星空、ホテルなど） 【季節】 ○尾瀬沼や尾瀬ヶ原の雪原 ○紅葉の燧ヶ岳林道 ○燧ヶ岳林道の上田代、横田代、沼尻湿原の草紅葉（キンコウカの葉） ○秋の紅葉樹林帯の登山道（例：八木沢、裏燧、道行沢、富士見峠～富士見下、一ノ瀬～大清水） ○山の鼻～上の大堀川間の尾瀬ヶ原の草紅葉や樹木、池邊のヒツジ草 【スポット】 ○ドローンから撮った尾瀬ヶ原の映像 ○燧ヶ岳の広沢田代と熊沢田代 ○横田代、大清水平、小淵沢田代、鬼怒沼方面、田代山・帝釈山 【植物】 ○ヤナギランの丘 ○水芭蕉や日光キスゲが終わったところの魅力・美しさ ○ワタスゲやカキツバタ（ミズバショウ/ニッコウキスゲ/草紅葉に集中させないように分散化を図る） ○木道沿いにみられる野生ラン ○コケ（倒木更新上も含む） 【樹木・巨木】 ○燧ヶ岳南面、特に沼尻からイヨドリ沢にかけての森林は原生的な高齢級林 ○大清水から一ノ瀬間の旧道（沼田街道由来の昔の遊歩道）と品川川の溪畔林 ○沼山峠頂上付近、尾瀬沼側の樹林帯（初夏の鳥のさえずりが心地よい） ○燧ヶ岳林道等の根上がりネズコや巨木の林（ダケカンバ、コメツガ、キタゴヨウなど） ☆休憩機能	
④	尾瀬コース案内 →ジオラマ	○	○立体的で鳥瞰的に楽しむ ○尾瀬沼と尾瀬ヶ原がどのように出来たのか？（燧ヶ岳と沼・原の関係） ○燧ヶ岳・至仏山の地質 ☆雨や雪が尾瀬にとって重要であることを説明	尾瀬の成り立ち：図解、映像 地質・地形：模型、図解 気候・水の動き：図解
⑤	尾瀬の成り立ち（尾瀬の地形と気候） →図解、映像			
⑥	マナー、禁止事項 →図解		○マナー禁止事項 ■規制・マナーについては、誰でも分かるような説明とする。（小学生、外国人）	マナー、禁止事項：図解
⑦	尾瀬・公園の概要、協働型管理の概要 →図解		○尾瀬の取り組み（シカ対策、トイレの仕組み） ■尾瀬国立公園の概要については、誰でも分かるような説明とする。（小学生、外国人） ☆尾瀬の自然の多面的な機能	尾瀬の取り組み：図解
⑧	尾瀬と人の歴史（尾瀬と人の関わり、守られてきた歴史） →図解		○沼周辺と檜枝岐村、大清水の関係性を伝える展示 ○尾瀬と檜枝岐村の文化・伝統など、関係を紹介 ○会津街道の歴史と尾瀬 ○蔵小屋、平野家の歴史 ○自然保護活動の歴史（尾瀬分水水力発電計画、車道建設、ゴミ持ち帰り運動など） ☆人文的（歴史や文化）な尾瀬の成り立ち ☆昔の尾瀬の地図や写真	尾瀬やその周辺地域の歴史・文化：図解 自然保護の歴史：図解
⑨	尾瀬に生息する生き物たち →図解、写真、毛皮、標本、音		○尾瀬の生き物が、「なぜ」そこにいるのか？ ○毛皮、樹皮、カエルの実物大 ○シカやクマなど野生動物との関わり・軋轢 ○動植物もなるべく模型や図解などで深堀りした方がと良い。	樹木：写真 ほ乳類：標本、写真 鳥類：写真、標本、映像 両生爬虫類・昆虫：写真、標本
⑩	周辺地域の紹介 →マップ、写真		○田代帝釈、会津駒ヶ岳 ○魚沼から行く尾瀬 ○檜枝岐や品川地区などのお店などの紹介（高齢者、外国人向けにも）	
⑪	企画展示コーナー	◎	○マニアックなもの 【生きもの、植物、自然】 ○尾瀬に潜む魚類の生態 ○生物多様性、シカ問題（面白い切り口で展示） ○ずっといないと観察できないものの変化 （例：ニッコウキスゲやヒツジグサやオゼコウホネの1個体の花を時間経過で展示） ○原生林の素晴らしさと重要性 ○燧ヶ岳・小平沢ルートに巨木と、そこに生息する生き物 ○高層湿原、低層湿原の違い、ケルミとシュレンケの成り立ち ○四季で見られる植物の移り変わり ○尾瀬周辺で見られる特徴的な自然現象 ○花が終わった後の種や木の実等の展示 ○クマ糞でドングリを食べるクマ ○夜の動物たちの行動画像 【歴史】 ○尾瀬特有の動植物とそれを確認した人の物語 ○三本カラマツの由来 ○過去の沼田街道の使われていた頃の尾瀬沼の位置 ○沼の現在の変遷 ○山にまつわる伝説、奇談、暮らし、古道、失われたもの 【その他】 ○星・天体 ○尾瀬に関わる人々（著名人・スタッフ・関係者・研究者・昔と今） ○環境問題（温暖化、CO2、オゾン層、大気、水質、外来生物、ゴミ、感染症、開発など） ○音と香り、五感を使うような展示 ○常設展示で伝えきれない内容の補足 ○写真展（四季の風景、星空、動物） ○木道あれこれ	星・天体：映像、写真
⑫	レクチャー室 →映像、写真、音		○映像で学んでほしい。 ○尾瀬の紹介映像などが多言語であるといい。 ○コース案内ビデオ（ビューポイント、歩行注意箇所等）	尾瀬の取り組み：映像 尾瀬やその周辺地域の歴史・文化：映像 自然保護の歴史：映像
	その他		○尾瀬の自然性を守り、守られたものを楽しむというメッセージ性が強く望まれている。 ○館内デザインに「自然保護を考える」もの ○来たことで感性が高まり、尾瀬が何倍も魅力あるものになるようになってほしい。 ○全て常設展示でもいいと思う。 ○造りものは飽きる、色あせてしまう。 ○活字よりも、映像や写真、標本などの展示を。 ○実物を補充するもの ○参加型、体験型 ○至仏山、燧ヶ岳、三条の滝のライブカメラ ○陳腐化しないよう適宜更新を ○子どもたちにも分かりやすいもの ☆自然についての、思ってもいない視点に気がつくようなネタ ☆どういった人がどう使うかの観点が重要。尾瀬沼VCだけでなく、周辺の施設を含めて（公園外も）、どのようなルートでどのような情報を得るのか、どう休憩するのか	



イス(参考)
67台
※テーブルは使用時には
イスを使用する。



テーブル(参考)
22台
※テーブルは備品として収納。

施設名称	尾瀬沼ビジターセンター		
業務名称	平成29年度尾瀬沼博物展示施設展示設計業務		
図面名称	展示平面図	縮尺	1/100
年月日	平成30年3月	図面番号	04
会社名	中央開発株式会社	照査	設計
事務所名	関東地方環	資料4-3	